

氏名(本籍)	かわはら ようこ (東京都)		
学位の種類	博士(世界遺産学)		
学位記番号	博甲第5456号		
学位授与年月日	平成22年3月25日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	中国麗江世界遺産地域における民家の変化と継承 - 白沙集落を中心とした保存のための考察 -		
主査	筑波大学教授	工学博士	稲葉信子
副査	筑波大学教授	工学博士	斎藤英俊
副査	筑波大学准教授	博士(農学)	黒田乃生
副査	国立文化財機構 東京文化財研究所 文化遺産国際協力センター長	博士(工学)	清水真一

論文の内容の要旨

(目的)

本論文は、伝統的な生活が維持され以前の民家の使い方と形態が有機的に機能している村落における民家建築の現状と保存における問題点を明らかにし、その課題について論じたものである。これらヴァナキュラー建築としての民家の保存に対し対処する方法は十分に研究されていない。

(対象と方法)

本論文では、都市部と村落で構成されている中国世界遺産麗江旧市街において、開発や観光化のスピードが最も緩やかで従来の住民生活が維持されている白沙を変化の過程をより効果的に検証しうる事例として取り上げ、民家の現状および継承の実態を明らかにし、この白沙における具体的な調査分析に麗江で講じられた保護政策に関する検討を加え民家の保存のあり方について論じた。

(結果と考察)

第1章では、研究の背景と目的を述べた。

第2章では、麗江世界遺産地域の地理的、歴史的な背景を確認し、遺産保護の施策内容を整理することにより、歴史地区が保護されてきた過程を示し、民家の保存における現状の問題点を把握した。麗江の文化遺産の整備は1949年後から行われていたが、世界遺産に登録される前の早い時期に行われた保護事業の主体は公園や道路・水路の整備であり民家の保存には及ばず、道路パターンや土地利用等は維持されているが建物への破壊が進んでいる。

第3章では、麗江の民家建築の保護施策について分析した。民家の保護としては指定民家の重点的な保護に加えて保存計画や修復手引書等により誘導基準が設けられているが、個々の建物の持つ特徴を維持する規制は十分ではなく、地域の固有な特色を守るためのより具体的な基準と施策を講じる必要性を述べた。

第4章では、白沙街尾村の白沙通り沿い民家の現状と変遷について分析した。現地調査結果から、建物単体では厦子架構、全体的には建物配置に着目し、これらにおける建築的な変化を明らかにした。民家の形態は比較的良好に維持されているが、しかしその詳細は変化していることから、伝統的な配置や様式を保存し、

世界遺産としての価値に基づく整備と活用を行うことの必要性を述べた。

第5章では、白沙街尾村の白沙通り沿い民家の街路景観に着目し、現地調査結果から2005年時点の街路景観としての建物ファサードの特徴を分析し、更に2009年までの変化の内容とそれらが街路景観に与えた影響を明らかにし、特徴を維持するための課題を考察した。2005年時点の街路景観は道路側を土壁とした建物が多かったが、4年後には道路側に開口部を設けた建物が増加し、道路側を外壁で閉じた住宅地としての景観の特徴が喪失していることを明らかにし、本地域の街路景観の特徴を維持するために、開口部に関する規制や土壁を守るための施策の必要性を挙げた。

第6章では、白沙通り三元村四方街に面する民家の現地調査から現状と変遷を明らかにし、保存のための考察を行った。現状および中華民国時代における建物の利用状況と四方街に面する建具の改造時期を明らかにし、改造前の推定立面図を提示した。現行の保存管理計画の問題点を指摘し、新しい形状である全屏開放型への改造を禁止し、古い形状である鋪板門型を中心とする従来の店舗の町並みへと整備する保存整備計画の基本方針を提案した。

第7章では、前章までで明らかにした内容の横断的な分析により、民家の保存に向けた課題となる施策や措置を述べた。伝統的な民家の特徴を示す範囲内での変化、新しい用途、および地域の特色を維持するための課題を挙げると共に大研古城の遺産保護の過程から背景に基づく古道等の維持・整備は白沙や周辺村落においても早い段階に行うことの必要性を述べた。

第8章では、各章の内容を確認し、白沙における民家の保存の課題についてまとめた。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、世界遺産である中国、麗江旧市街の構成資産である大研古城、東河、白沙のうち、農村的要素が強い集落であるため観光その他の開発による影響が緩やかで、保存方法研究のための変化の過程の検証が可能な白沙集落を取り上げて、中国民家集落に特有な保存の問題点を分析し、その解決のための方法を考察し、当該世界遺産の保存計画立案のために必要な提案を行ったものである。歴史都市・集落の保存のためには、より広域の地域計画から観光・経済開発計画、住民生活のためのインフラ整備を含む多角的な視点が必要となるが、本論文は其中でも民家のデザインにかかる建築的視点、特に民家ファサードの変化とその要因及び対策について考察を加えている。国際的にみても民家集落の大きな視覚的変化はファサードの商店化によることが普通であり、中国では特にこの傾向が強い。本論文は、この問題に着目したものであり、世界遺産麗江旧市街の保存のためのみならず、世界各地の集落保存における民家ファサードの保存方法の研究に貴重な研究方法論を提示したものと評価される。

よって、著者は博士（世界遺産学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。